

別紙

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

シャープ株式会社 電子デバイスカンパニー 三原事業所

(2) 事業所の所在地

広島県三原市沼田西町惣定 2 4 7

(3) 業種

2 8 1 2 光電変換素子製造業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成 2 7 (2 0 1 5) 年度を基準年度とし、平成 2 8 (2 0 1 6) 年度から、平成 3 2 (2 0 2 0) 年度までの 5 年間とする。

3 計画の基本的な方向

◎全社環境基本理念

『誠意と創意をもって「人と地球にやさしい企業」に徹する』

◎全社環境方針

『環境共有価値 (Green Shared Value[※])』の拡大

◎環境戦略

【全社環境基本理念】及び【全社環境方針】に基いて、当事業所で働く人々の力を結集し、地域社会の環境保全と汚染予防に努めます。

○上記の内容を実現する為に、環境マネジメントシステムを推進し、以下の事項に取り組みます。

- ① 法的要求事項及び同意するその他の要求事項の順守
- ② 環境方針・目的/目標の設定と定期的な見直し
- ③ 環境に配慮した製品の開発と生産
- ④ 温室効果ガス排出量の削減を推進
- ⑤ 廃棄物排出量の削減と有効利用の促進
- ⑥ 化学物質の適正管理と排出量抑制の促進
- ⑦ 従業員の環境マインドの醸成
- ⑧ 地域社会貢献活動への積極的な参画
- ⑨ 生物多様性保全の取組み

※「環境面における社会ニーズの充足」と「事業の成長」を両立することで生みだされる価値を、環境共有価値 (Green Shared Value : GSV) と定義し、この環境共有価値の創出と拡大を図る価値を意味します。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度 (工場未設置)	基準年度 平成27年度	直近年度 平成27年度
二酸化炭素	-	10,230	10,230

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
二酸化炭素			

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
メタン			
一酸化二窒素			
HFC PFC SF ₆	半導体素子等の加工工程におけるドライエッチング又は製造装置の洗浄	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 年間投入量が少量(5kg)であり、除害効率95%以上の除害装置を設置し、排出量としては極めて少量となるため、省略致します。 </div>	

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				
非エネルギー起源CO ₂				
メタン				
一酸化二窒素				
フロン類				
温室効果ガス 実排出量総計				
温室効果ガス みなし排出量				
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： ウェハー投入面積[補正]^{注1} (千cm²)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量 (千cm²)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 27 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成 32 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	10,230	4,382	2.335	5%	9,719	4,382	2.218
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算k1)			0.8553	5%			0.8125
目標設定の考え方	エネルギー起源原単位CO ₂ は原単位ベース年1%の削減率						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

注1：平成27年度の省エネ法報告より、ウェハー投入面積を補正式で補正したものを原単位指標として採用しているのに合わせ、省エネ法と同一の指標に変更しています。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	エネルギー使用に起因するCO ₂ 排出量の削減	エネルギー使用に起因するCO ₂ 原単位を年平均1%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・高効率機器の採用 ・LED照明の導入 ・空調設備の運用見直し等
2			
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

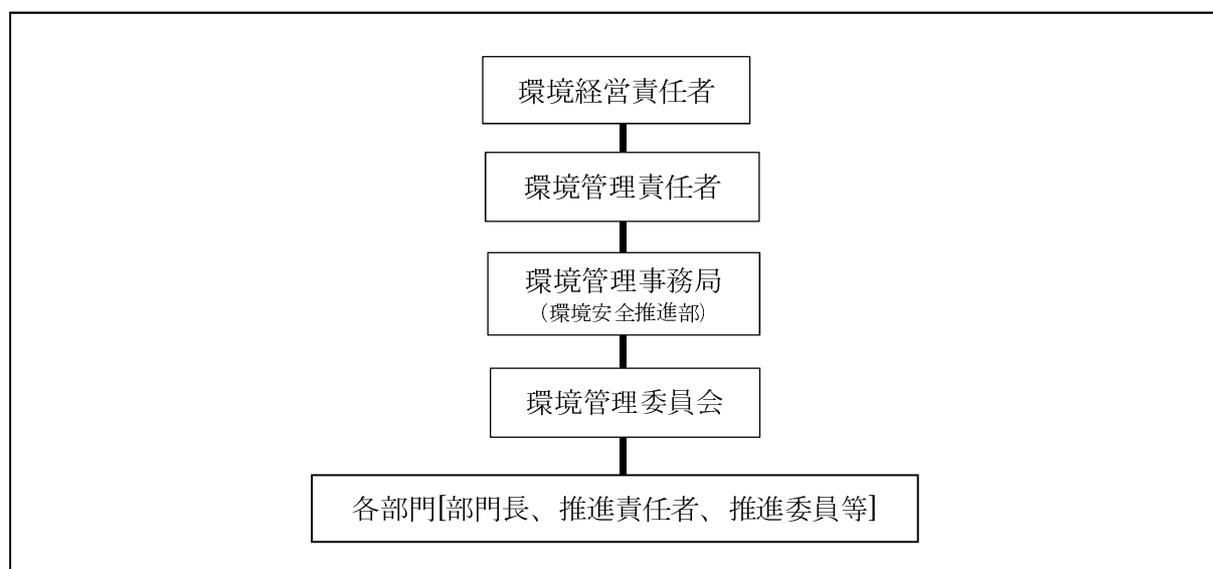
○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	廃棄物排出量の削減	最終処分率0.2%以下	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物発生の抑制 ・有価物化推進
2	地域貢献活動	-	<ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動の実施 ・自然保護活動への参画
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

環境安全推進部を事務局として、

- ・事業所全体でのエネルギー削減計画を定め、毎月進捗確認を行います。
- ・各部門においても環境管理計画を定め、エネルギー削減、廃棄物削減等の目標を定め、毎月進捗確認を行います。
- ・環境推進会議を定期的に行い、これら全体の進捗確認を事務局、各部門及び責任者にて行います。

(3) 計画書等の公表

- ・事業所への備付けによる閲覧。